

主催：公益社団法人日本写真家協会
page2019 オープンイベント「日本写真保存センター」セミナー

写真フィルムのデジタルアーカイブ —デジタル化による利用・検索の可能性—

写真術の発明によって情報伝達の技術が急速に進みました。景観や日々の暮らし、風俗から自然災害、戦乱といった事象が次々と伝達され、その折々の状況が写真家によって、フィルムに克明に記録され歴史を構築しています。

その残されている夥しい画像が、時を経るごとに劣化や廃棄の危機に瀕しています。こうした現状を防ぐため、日本写真保存センターでは遺族や写真家のもとから写真原板を収集・保存し、利活用をするためのデータベース化を図り、アーカイブの構築を行っています。

本セミナーでは、講師に国立民族学博物館の丸川雄三准教授をお迎えして、「写真アーカイブとは何か」「デジタル化によって利活用がどのように広がるか」について講演をしていただきます。

日時：2019年2月6日（水）13：30～16：30

会場：池袋サンシャインシティ文化会館 7階 710号室

1：「写真保存センターの活動—収集・保存、データベースの構築」

について

講師：松本徳彦（公益社団法人日本写真家協会副会長）

2：「写真原板情報のデジタル化—利活用の範囲を広げる」

について

講師：丸川雄三（国立民族学博物館人類基礎理論部研究部准教授）

3：質疑応答 ディスカッション

★収蔵フィルムから構成した「後世に遺したい写真」をご覧いただきます。

聴講：無料

申し込みは「日本写真家協会のホームページ」からお申込みください。

定員：80名（申し込み順。定員に達し次第で締め切ります）